

# 秋吉敏子を聴く

秋吉敏子は 1929 年旧満州に生まれ大連音楽学校でピアノを学んでいたが、終戦により九州（別府）に引揚げられる。別府の進駐軍用ダンスホールでピアニスト募集の張り紙を見て応募。（16 才）その後、福岡を経て 1949 年に上京。1951 年に渡辺貞夫を加えたコーギー・カルケット結成。1953 年 JATP で来日中のオスカー・ピーターソンに認められ、ノーマン・グランツ指示によるレコードディング（日本放送ラジオ局のスタジオ）を行い、アメリカでレコードが発売されアメリカジャズ界に知られることになった。これがきっかけとなり 1956 年にパークレイ音楽院に奨学生（スカラシップ）として渡米。（1989 年まで）

1956 年・57 年にはニューポート・ジャズ祭にトリオで出演しライブ録音が発売される。1960 年にチャーリー・マリアーノとカルテットを結成し、1961 年には日本での帰国公演を行う。

1968 年にはルー・タバキン (ts) とカルケットを編成して 1970 年の大阪万博に出演している。1972 年にニューヨークからロサンジェルスに移住し、トシコ=タバキン・ビックバンド結成する。このバンドは、アキヨシトシコのオリジナル曲のみを発表する、デューク・エリントンを範としたバンド。1974 年にデビュー、75 年にモンタレイ・ジャズ祭に出演し注目を得る。

彼女は「私は社会人として社会で起きることに興味がある。ジャーリストは文章で表現するのですが、同じように私は音楽で表現しようと思っています。」「以前から、日本人としてのジャズというテーマは私の頭の中に有ります。例えば、デューク・エリントンは黒人という自身のルーツがにじむ音楽を作っている。私も日本という自分のルーツを音楽に反映させたいと考えてきました。それをある程度形にすることが、67 年に初演した『すみ絵』という曲です。日本的な流れるような旋律とジャズ的なリズムうまく融合できたと思います。そして『孤軍』は、日本文化とジャズの融合がハッキリと形になった最初の作品だと思っています」

1978 年には米国・日本ばかりで無く欧州ツアーも始まる。評価はあがり、1978 年度タウンビート誌読者投票でビックバンド・編曲の 2 部門で 1 位、79 年は同誌の国際批評家投票でビックバンド・編曲の 2 部門で 1 位、80 年の読者投票ではビックバンド・編曲に加え、作曲部門でも 1 位となる。

1982 年に秋吉敏子一家はロサンジェルスからニューヨークへ戻る。「ニューヨークはジャズの最前線。そこで刺激を受けながら、創作、演奏活動を行いたいと思った」。1983 年に秋吉敏子ジャズオーケストラ・フィーチャリング・ルー・タバキンバンドを結成。

1986 年自由の女神像完成 100 年にちなんで制定されたリバティー賞を受賞した。タウンビート誌では評価が高くグラミー賞のビックバンド部門では幾度となく候補となるが、受賞はなかった。

1999 年国際ジャズ名誉の殿堂入り（カンザスシティー）

2006 年国立芸術基金ジャズマスターズ賞

2003 年ビックバンドを解散。「作曲者としての自分と奏者としての自分を考えたとき、最期は自分の音楽としての原点であるピアノに専念したいと思いました」

「そうですね、まずジャズ・ピアニストとしての決意表明であり、私のテーマ曲のような『ロング・イエロー・ロード』、日本的な流れるような旋律とジャズのリズムの融合をうまくできた『すみ絵』、それをさらに推し進め、日本文化とジャズの融合という作曲家としての進むべき道を確立した『孤軍』、それと同じ方向性を持ちつつ、同時代に自分の周りで起きている出来事への問題意識を打ち出すことが出来た『ミナマタ』、組曲の中の 1 曲として作ったのが、9・11 以降、平和の願いを込めて、独立した曲として演奏を続けている『希望』といった所が、自分の中で思い入れが強い曲ですね」

参考にした本

- ※「ジャズと生きる」 穂吉敏子 岩浪新書 1996年
- ※「私のジャズ物語」 NHK 人間講座 2004年
- ※「秋吉敏子と渡辺貞夫」 西田 浩著 新潮新書 2019年
- ※「至高の日本ジャズ全史」 相倉 久人 著 集英社新書 2012年
- ※「戦後日本のジャズ文化」 マイク・モラスキー著 岩波現代文庫 2017年の文庫版(2005年)
- ※「ジャズの歴史物語」 由井 正一 著 角川ソフィア文庫 平成30年

## I 「アメイジング・トシコ・アキヨシ」、

### 秋吉敏子の幻の名盤

(原盤は25cm版アメリカで発売されていたものを日本でまとめて30cm版としたもの)

#### SIDE A

1953年、秋吉敏子がJATP講演で来日したオスカー・ピーターソンに認められ、ノーマン・グランツ指示の元、ラジオ東京のスタジオで録音されたもの。ノーマン・グランツのためのもので、アメリカでのみ発売された。(25cm版として)秋吉敏子初めてのレコーディング。

(この頃、トシコはバド・パウエルを尊敬していた)

- (1) 恋とは何でしょう
- (2) 風と共に去りぬ
- (3) 幸福になりたい
- (4) トシコのブルース
- (5) シャドロック
- (6) ソリダード
- (7) スクオッティール
- (8) ローラ

秋吉敏子 (ピアノ)  
ハーブ・エリス (ギター)  
レイ・ブラウン (ベース)  
J・C・ハード (ドラムス)

#### SIDE B

1957年、ボストン・バークリー音楽院留学中、ニューポート・ジャズ祭での演奏。

(2度目の出演)

- (1) ビトゥイーン・ミー・アンド・マイセルフ (彼女のオリジナル曲)
- (2) ブルース・フォー・トシコ

(3) アイル・リメンバー・エイプリル

(4) ラヴァー

秋吉敏子 (ピアノ)

シーン・チェリコ (ベース)

シェイク・ハナ (ドラムス)

## II 「秋吉敏子オーケストラ カーネギー・ホール・コンサート」

1991年 カーネギー・ホールにおける実況録音  
音楽生活 45 周年・渡米生活 35 周年記念アルバム

(1) イントロダクション

(2) チルドレン・オブ・ザ・ユニバース

横浜市世界平和会議委嘱

(3) アイ・ノウ・フー・ラヴィズ・ユー

(4) アフター・ミスター・テン

1980年、中国の鄧小平の米国訪問時に作曲された

(5) ユア・ビューティー・イズ・ア・ソング・オブ・ラブ

(6) 鴻臚館 (こうろかん) 組曲

1989年福岡市で開催・・・アジア太平洋展覧会のイベントで発表

(7) チェイシング・アフター・ラブ

1978年の「塩銀杏」のアルバムから

(8) ハウ・デュー・ゲット・カーネギー・ホール

## III 「秋吉敏子 渡米 50 周年 日本公演」

東京有楽町朝日ホールの非公開ライブ録音 (2006年)

(1) ロング・イエロー・ロード

1961年朝日ソノラマ録音した、初期のアリジナル曲

(2) 孤軍

1971年のビックバンドアルバムタイトル曲

(3) フェアウェル・トゥ・ミンガス

チャーリー・ミンガスを追悼して作曲。1980年のアルバムタイトル曲

(4) ザ・ビレッジ〜レディー・リバティー

前半・1971年ビクターに録音したピアノ・ソロ (木更津甚句のヒントに)

後半・1986年「自由の女神」賞に選ばれたときに作曲

(5) トゥリンクル・ティンクル・

1957年のセロニアス・モンクの曲

(6) すみ絵

1979年のアルバム曲

(7) チェイジング・アフター・ラブ

1978年のビッグバンド「塩銀杏」で発表1